

アムスルだより

No. 58 2002年 11月10日

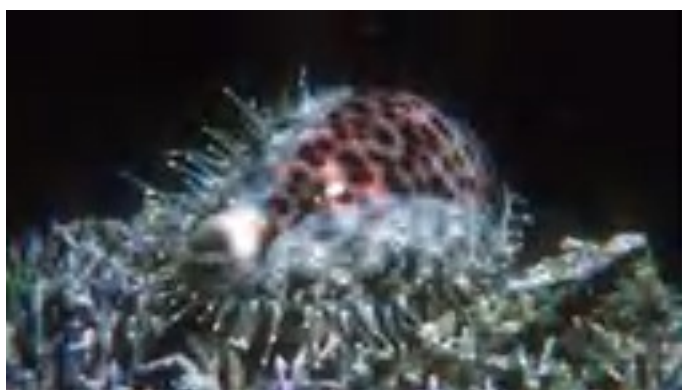
Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所



〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。http://www.amsl.or.jp

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@ryukyu.ne.jp



お金の貝

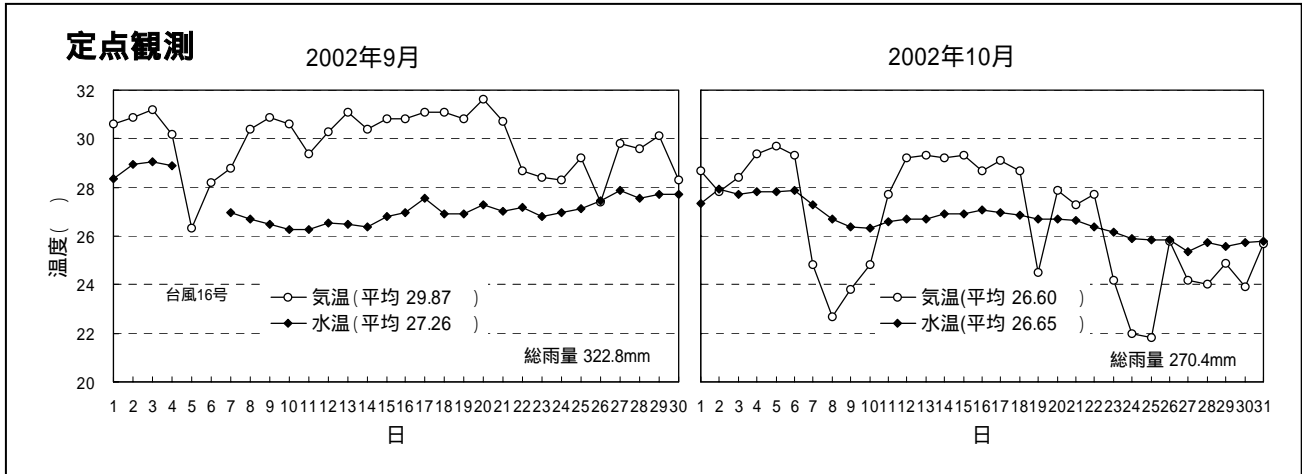
タカラガイの仲間

朝晩はずいぶん涼しくなってきました。冬場は、夜の干潮時にものすごく潮が引くので、そろそろいざいに出かける人も増えてくるのではないのでしょうか。夜の干上がった海岸では、いつもは海の中でしか見ることのできない色々な生き物を簡単に見ることができます。食用のタコやサザエはもちろん、アメフラシの仲間やウニの仲間、潮だまりの中にはハゼやスズメダイ、時にはミノカサゴの仲間も取り残されています。今回は、そうした生き物の中から、タカラガイの仲間を紹介しましょう。

タカラガイを見たことのない人は、あまりいないのではないのでしょうか。丸っこいすべすべした貝殻は、大変美しく、貝のコレクターの間で最も人気があります。見た目にきれいな貝殻ですが、中国など多くの場所で、昔はこれをお金として使っていました（ニューギニアの奥地

では、ごく最近までタカラガイで買い物できたそうです。「貝」という漢字は、タカラガイの貝殻かいがらの形からできたものですが、タカラガイがこのようにお金の代わりとして使われていたので、お金に関係する漢字には、「財」や「貨」のように「貝」の含まれるものがたくさんあります。

タカラガイの仲間は、世界で 200 種ほどが知られていますが、阿嘉島周辺では 35 種が確認されています。いざいを行う浅瀬から水深数百mという深海まで幅広く棲んでいます。阿嘉島では殻に白い斑点模様はんでんもようのあるハナマルユキダカラやオレンジ色の輪の模様もようをしたハナビラダカラ、うす黄色をしたキロダカラなど殻の長さが 3cm ほどの小型のタカラガイを浅瀬でよく目にします。黒い斑点があり殻からの長さが 10cm ほどの大型のホシダカラが這っているのを、やはり浅場の海底で見かけることもあります。そうして這い回っている時のタカラガイの表面には、たくさんの突起とつきがはえていて、見なれたスベスベの貝殻かいがらは見ることはできません。これは、タカラガイが、貝殻全体を突起のある外套膜がいとうまくという体の一部で覆い包んでいるからです。ほかの巻き貝の殻からは、キズだらけだったり海藻やよごれがつい



ていたりしますが、タカラガイの殻は、
 このように外套膜がいとうまくに包まれているので、
 きれいなスベスベのままできているのです。

阿嘉島のまわりには、同じように
 外套膜がいとうまくで貝殻かいからを覆おおってくらしているウミ
 ウサギガイという巻き貝もいます。これは
 タカラガイにとっても近い仲間ですが、
 正確には別のグループの貝です。ウミウ
 サギガイは、ウミキノコなどのソフトコ
 ーラルのそばでくらして、そのソフト
 コーラルをエサにしています。ちなみ
 に、タカラガイの仲間は、雑食性ざっしょくせいで海藻
 やカイメンなど色々なものを食べている
 ようです。

タカラガイは、夏にたくさんの卵を海
 底に産みつけ、そして卵がかえるまで、
 母親がその上に乗って卵を守るらしいの
 ですが、残念ながらまだ見たことはありません。
 これまでに見たことのある人や
 このあと見た人は、ぜひその様子を教え
 てください。

昔、お金として使われたタカラガイは
 貴重なきちょうなものだったでしょう。そして、今
 でもそれは貝のコレクターにとっては価
 値のあるものです。しかし、時々「死ん
 だあとのタカラガイはキズが入っている
 ので、生きたまま採集する」という話を
 聞きます。必要以上に生命を奪わないよ
 うにしたいものです。

阿嘉島の海より

- 日本サンゴ礁学会 -

10月31日-11月2日、東京にある東京
 工業大学で「日本サンゴ礁学会」が開
 催されました。この学会は毎年一回、
 沖縄と東京で交互に行なわれているも
 ので、今年で5回目となりました。サン
 ゴ礁の研究に関わる日本中の研究者が
 一堂に会して研究の成果を報告します。

サンゴ礁の研究と一口に言っても研
 究分野はさまざまです。サンゴ自体や
 サンゴ礁に棲む色々な生き物の生物学
 的、生態学的な調査・研究をやっている
 人もいれば、サンゴ礁という大きな
 自然構造物の地球規模での役割やその
 歴史を研究している人、赤土流出や埋
 め立てなどの環境問題に取り組んでい
 る人、サンゴ礁に棲む生き物が作り出
 す物質から人間生活に有効なものを見
 つけようとしている人など・・・。

阿嘉島臨海研究所からも大森所長、
 岩尾、谷口が参加して発表をしてしま
 した。世界中のサンゴ礁が危機的な状
 況にある中、どうかしてサンゴ礁を
 回復に向かわせようという動きは学会
 でも年々活発になってきています。阿
 嘉島臨海研究所もサンゴ礁研究の重要
 な拠点きよてんの一つとして、これからもみな
 さんと一緒に頑張っていきたいと思
 います。